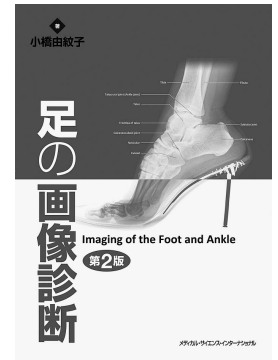


足の画像診断 第2版

小橋由紋子・著

評者 羽鳥正仁 (仙塩利府病院院長)

B5判・416頁
2021年9月
定価：8,360円
(本体7,600円＋税)
ISBN978-4-8157-3030-7
MEDSi 刊



待望の『足の画像診断第2版』が出版された。著者の小橋由紋子先生は第1線の現場で活躍する放射線診断医で足部疾患・外傷のスペシャリストである。整形外科医が圧倒的に多い日本足の外科学会の評議員としても活躍されている。今まで、単著として『足の画像診断』以外でも『ジェネラリストのための高齢者画像診断』、『早期診断で差がつく！スポーツ診療のための画像診断』、『症例でわかる足関節・足部のMRI すぐに役立つ撮り方・読み方のポイント』など、タイトルからもわかるとおり日常の診療ですぐに活用できる多くの本を世に出している。

従来ともすれば羅列型、紋切り型になりがちな医学参考書の中であって、先生の本は圧倒的に情報量が多いのが特徴である。情報量とは、先生の圧倒的な知識と記述であり、日常診療経験に裏打ちされた豊富な画像データである。これは先生の類い稀なる医学的文才(センス)と、序文でも述べているとおり整形外科医、臨床検査医との現場でのディスカッション、交流の賜物でもある。時に見られる整形外科医と放射線診断医のギャップが本書には見られない。

本書は8年ぶりの改訂版であるが、先生のアイデア、読者への心配りがさらに遺憾なく発揮され

ている。解剖の項目一つとっても、足の解剖のイラスト、臨床的視点に立った筋肉の走行、部位の記述、左右の足のMRI解剖、足のレベルごとの記載など痒いところに手が届く、知りたい内容がずばり詳述されている。

整形外科疾患・外傷の画像診断では単純X線写真が基本であり今回の改訂では、単純X線写真の掲載・記述が増えたのも有難い。追加された「術後の画像診断」の章では、足の保存療法、治療に難渋することの多い変形性足関節症の各種手術療法についても言及し、また「骨折の治癒過程の見かた」の項では、化骨の出現、骨密度、転位のチェックなどに具体的に画像をあげて画像診断のポイントを述べている。評者の専門でもある腫瘍および腫瘍類似病変、絞扼性神経障害では、整形外科医が遭遇するであろう病変が網羅されており好発部位、年齢などの臨床的特徴、各種画像診断所見、鑑別診断が明瞭に記載されている。診断に難渋する骨サルコイドーシスなどは是非読んでいただきたい内容に溢れている。

本書は放射線診断医のみならず整形外科医にも有益であり、普段「足」に馴染みのない先生方にとっては、足疾患・外傷の多様性、画像診断の妙味に引き込まれる1冊であると確信している。